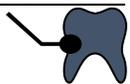


ちかくかびん 知覚過敏

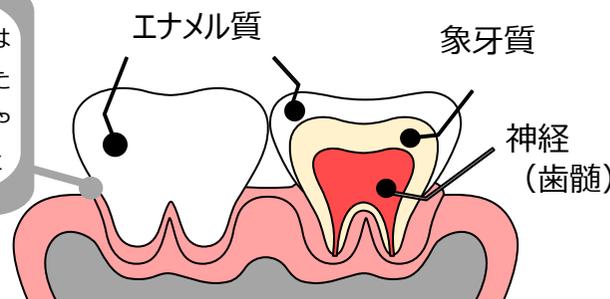
知覚過敏とは、歯ブラシの毛先が触れたり、冷たい飲食物、甘いもの、風にあたった時などに歯に感じる一時的な痛みで、特にむし歯や歯の神経（歯髄）の炎症などの病変がない場合にみられる症状を言います。



歯は表面が硬い「エナメル質」でできていて、その中に感じた刺激を神経に伝える役割を持つ「象牙質」が存在します。

しかし、何らかの原因によって象牙質が露出することがあります。露出した象牙質が刺激を受けることによって、痛みやしみといった症状が表れるのが知覚過敏の仕組みです。

歯の頭の部分（歯冠）はエナメル質が厚いため、象牙質が露出しやすいのは歯の根本付近



【象牙質が露出する原因】

- 1.かみ合わせの異常
- 2.歯周病の進行
- 3.誤った歯みがき
 - ・強い力で歯みがき
 - ・歯ブラシを大きく動かす
 - ・かたい歯ブラシの使用
- 4.加齢など



ここが知りたい！

ちかくかびん 「知覚過敏」って何？

青年期・壮年期シリーズ vol.19

一時的な痛みでも、それがひどくなったり持続するようになると、痛みのせいで歯みがきが困難になりプラーク（歯垢）除去が不十分になります。

その結果、むし歯や歯周病を誘発したり悪化させます。

また、プラークが出す酸によって、さらに知覚過敏は悪化してしまいます。



知覚過敏の予防方法・対処方法

- ・歯みがきは力を入れすぎず、大きく動かさないようにしましょう。
- ・歯肉が下がり象牙質が露出している場合、歯の根元付近のプラークをていねいに取り除きましょう。
- ・症状が続くようであれば、早めに歯科医院に相談し、適切な処置と指導を受けましょう。

【歯科医院で行う処置】

- ・フッ化物塗布し、象牙質の再石灰化を促進する。
- ・象牙質の表面にコーティング剤を塗布したり、つめもので歯を覆うことで刺激を遮断する。
- ・原因となるかみ合わせを調整する。